

景気動向調査

(飲食業、サービス業、卸・小売業、建設業)

平成30年7～12月期

調査概要

調査時期	平成31年1月16～31日
調査対象時期	(当期):平成30年7～12月 (次期):平成31年1～6月
調査対象企業	一般商工業者80社(飲食業、サービス業、卸・小売業、建設業)
有効回答率	82.5%
調査方法	郵送によるアンケート方式
調査内容	①業界景気など、自社景況の実績と次期予測 ②経営上の課題 ③自由記述(業界内での話題や困りごと等)

1.【設問1】集計結果

—B.S.I値で見る業種別景気動向—

※B.S.I値 とは

- 「Business Survey Index(ビジネス・サーベイ・インデックス)」の略で、景況判断指数のひとつ
- 下記の計算式で算出された数値が、プラスであれば景気に対する判断は上向き、マイナスであれば下向きと判断する

※(「上昇:好調の要素」-「下降:不調の要素」)÷2

最大値はプラスマイナスいずれも「50」となる

質問事項

以下の項目について、当期実績および次期予測を伺います。選択肢から該当するものを選び解答欄にご記入ください。

	項目	回答欄	
		当期実績	次期予測
1	国内景気について 1. 良い 2. やや良い 3. 不変 4. やや悪い 5. 悪い		
2	貴業界景気について 1. 良い 2. やや良い 3. 不変 4. やや悪い 5. 悪い		
3	貴社 売上について 1. 増加 2. やや増加 3. 不変 4. やや減少 5. 減少		
4	貴社 営業利益について 1. 増加 2. やや増加 3. 不変 4. やや減少 5. 減少		
5	貴社 製（商）品在庫について 1. 過少 2. やや過少 3. 不変 4. やや過多 5. 過多		
6	貴社 資金繰りにについて 1. 容易 2. やや容易 3. 不変 4. やや困難 5. 困難		
7	貴社 設備投資について 1. 増加 2. やや増加 3. 不変 4. やや減少 5. 減少		

(1) 国内景気について

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(平成30年7月～12月)	-13.9	-22.7	-13.3	-16.7	-2.8
※前回予測との比較	(△5.1)	(±0)	(△20.0)	(▲10.4)	(△11.1)
次期予測(平成31年1月～6月)	-15.3	-18.2	-16.7	-12.5	-13.9
※当期実績との比較	(▲1.4)	(△4.5)	(▲3.4)	(△4.2)	(▲11.1)

(当期実績)

平均値: B. S. I値▲13.9ポイントを記録。前回予測比△5.1ポイントとなった。

業種別: サービス業が▲13.3ポイントながら、前回予測比△20.0ポイントと、予測ほどの低迷はなかった。

(次期予測)

平均値: 当期比▲1.4ポイントと、若干ながら悪化の予測となった。

業種別: 建設業が▲13.9ポイントと、当期比で▲11.1ポイントと、大きく悪化の予測となった。

(2) 業界景気について

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(平成30年7月～12月)	-26.8	-31.8	-36.7	-25.0	-13.9
※前回予測との比較	(△4.9)	(△9.1)	(△3.3)	(▲4.2)	(△11.1)
次期予測(平成31年1月～6月)	-21.7	-13.6	-30.0	-20.8	-22.2
※当期実績との比較	(△5.1)	(△18.2)	(△6.7)	(△4.2)	(▲8.3)

(当期実績)

平均値: B. S. I値▲26.8ポイントを記録。前回予測比△4.9ポイントとなった。

業種別: 各業界でB. S. I値そのものが大きく落込んでおり、景気の低迷がうかがえる。

(次期予測)

平均値: 当期比△5.1ポイントと、若干ながら改善の予測となった。

業種別: 建設業は当期比▲8.3ポイントと数値を落とすも、他業種では改善の予測となった。一方、飲食業では、当期比△18.2ポイントと、△20ポイント近い改善の予測がでた。

(3) 売上について

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(平成30年7月～12月)	-10.7	-13.6	-13.3	-18.8	2.8
※前回予測との比較	(△5.4)	(△18.2)	(△3.4)	(▲8.4)	(△8.4)
次期予測(平成31年1月～6月)	-14.5	-18.2	-13.3	-12.5	-13.9
※当期実績との比較	(▲3.8)	(▲4.6)	(±0.0)	(△6.3)	(▲16.7)

(当期実績)

平均値: B. S. I値▲10.7ポイントを記録。前回予測比△5.4ポイントとなった。

業種別: 飲食業が前回予測比△18.2ポイントと、予測より落込みはなかった。

(次期予測)

平均値: 当期比▲3.8ポイントと、少々悪化の予測となった。

業種別: 建設業が当期比▲16.7ポイントを記録。他業種に比べ、落込み予測の幅が大きくなった。

(4) 営業利益について

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(平成30年7月～12月)	-13.4	-18.2	-16.7	-18.8	0.0
※前回予測との比較	(△3.5)	(△13.6)	(△3.3)	(▲8.4)	(△5.6)
次期予測(平成31年1月～6月)	-14.4	-22.7	-16.7	-12.5	-5.6
※当期実績との比較	(▲1.0)	(▲4.5)	(±0.0)	(△6.3)	(▲5.6)

(当期実績)

平均値: B. S. I値▲13.4ポイントを記録。前回予測比△3.5ポイントとなった。

業種別: 卸・小売業は数値の改善がみられるも、他業種ではやや悪化傾向にある。

(次期実績)

平均値: 当期比▲1.0ポイントと、状況はあまり変わらない見通しとなった。

業種別: 飲食業、建設業では悪化の予測となるも、卸・小売業では改善予測となった。

(5) 製(商)品在庫について

(+:在庫過少 -:在庫過多)

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(平成30年7月～12月)	10.4	13.6	10.0	6.3	11.5
※前回予測との比較	(△4.9)	(△22.7)	(▲5.0)	(▲2.0)	(△3.8)
次期予測(平成31年1月～6月)	8.4	18.2	5.0	10.4	0.0
※当期実績との比較	(▲2.0)	(△4.6)	(▲5.0)	(△4.1)	(▲11.5)

(当期実績)

平均値: B. S. I値△10.4ポイントを記録。前期比△4.9ポイントとなった。

業種別: 飲食業が前期比△22.7と大きく数値が伸びている(在庫過少)。

(次期実績)

平均値: 当期比▲2.0ポイントと、大きな変化はない見込み。

業種別: 業種により、予測は様々。建設業では、在庫状況が落ち着く予測となった。

(6) 資金繰りについて

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(平成30年7月～12月)	-7.9	-18.2	-13.3	-8.3	8.3
※前回予測との比較	(▲2.5)	(▲4.6)	(▲17.0)	(▲2.0)	(△13.9)
次期予測(平成31年1月～6月)	-11.8	-13.6	-14.7	-10.4	-8.3
※当期実績との比較	(▲3.9)	(△4.6)	(▲1.4)	(▲2.1)	(±0.0)

(当期実績)

平均値: B. S. I値▲7.9ポイントを記録。前期比▲2.5ポイントとなった。

業種別: 建設業を除く業種は、数値が落ち込んだ。特にサービス業では、前期比▲17.0と苦しんでいる。

(次期実績)

平均値: 当期比▲3.9ポイントと、若干落込む予測となった。

業種別: 全業種±5ポイント以内の予測となり、大きな変化はない見通し。

(7) 設備投資について

対象期間	平均値	飲食	サービス	卸・小売	建設
当期実績(平成30年7月～12月)	-1.1	-9.1	-7.1	0.0	11.8
※前回予測との比較	(△0.9)	(▲9.1)	(±0.0)	(▲2.1)	(△14.7)
次期予測(平成31年1月～6月)	-10.5	-4.5	-25.0	2.1	-14.7
※当期実績との比較	(▲9.4)	(△4.6)	(▲17.9)	(△2.1)	(▲26.5)

(当期実績)

平均値: B. S. I値▲1.1ポイントを記録。前期比△0.9ポイントとなった。

業種別: 各業種で大きな変化はない見込み。建設業は前回予測比△14.7ポイントと、数値を伸ばしている。

(次期実績)

平均値: 当期比▲9.4ポイントと、落ち込む予測となった。

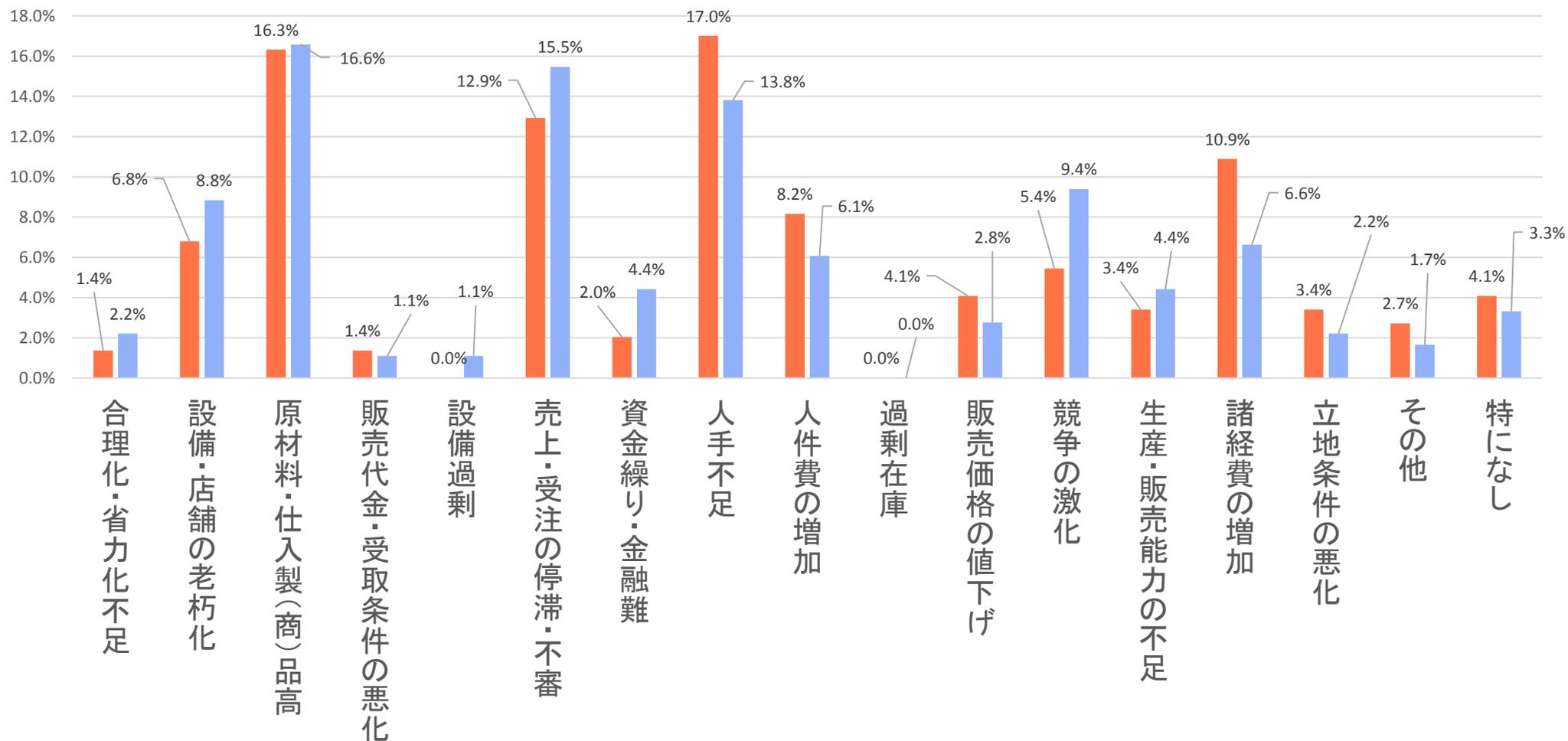
業種別: サービス業、建設業で大きく数値を落とす予測に。飲食業、卸・小売業では改善傾向。

2.【設問2】集計結果

—業種別、経営上の問題点—

(1) 全体結果 (前期数値 当期数値)

経営上の課題 平成30年7～12月



(2) 業界別結果 (■ 今回上位3項目 □ 前回上位3項目)

	合理化・省力化不足	設備・店舗の老朽化	原材料・仕入製(商)品高	販売代金・受取条件の悪化	設備過剰	売上・受注の停滞・不振	資金繰り・金融難	人手不足	人件費の増加	過剰在庫	販売価格の値下げ	競争の激化	生産・販売能力の不足	諸経費の増加	立地条件の悪化	その他	特になし
飲食業	0.0%	7.7%	26.9%	0.0%	0.0%	7.7%	3.8%	19.2%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	0.0%	3.8%	7.7%
※前期比	-	(△0.6)	(△9.0)	(▲3.6)	(▲3.6)	(▲6.6)	(▲6.9)	(▲2.2)	(▲3.0)	-	(▲3.6)	-	(▲3.6)	(△11.8)	-	(△3.8)	(△7.7)
サービス業	2.9%	8.8%	8.8%	2.9%	0.0%	2.9%	0.0%	20.6%	14.7%	0.0%	0.0%	5.9%	2.9%	11.8%	5.9%	5.9%	5.9%
※前期比	(△0.9)	(▲1.2)	(▲5.2)	(△2.9)	(▲2.0)	(▲15.1)	(▲2.0)	(△4.6)	(△8.7)	-	-	(▲4.1)	(▲3.1)	(△5.8)	(△5.9)	(△5.9)	(▲3.1)
卸・小売業	0.0%	8.7%	17.4%	2.2%	0.0%	26.1%	2.2%	4.3%	0.0%	0.0%	6.5%	6.5%	4.3%	8.7%	6.5%	2.2%	4.3%
※前期比	(△1.6)	(▲2.8)	(△0.6)	(△0.6)	-	(△8.1)	(▲2.7)	(▲0.6)	(▲3.3)	-	(△3.2)	(△1.7)	(▲2.3)	(△0.5)	(▲0.1)	(△0.6)	(△2.7)
建設業	2.4%	2.4%	14.6%	0.0%	0.0%	9.8%	2.4%	26.8%	12.2%	0.0%	7.3%	7.3%	4.9%	9.8%	0.0%	0.0%	0.0%
※前期比	(▲2.4)	(▲2.4)	(▲2.1)	-	-	(△0.3)	-	(△7.8)	(△5.1)	-	(▲2.5)	(▲9.4)	(△4.9)	(▲2.7)	-	(▲4.8)	(▲2.4)

(3) 特記事項①(飲食業、サービス業)

<飲食業>

- ・前回上位3項目のうち「売上・受注数の減少(7.7%:前期比▲6.6)」が改善傾向
- ・一方で「諸経費の増加(15.4%:前期比△11.8)」が大幅増となり課題となっている

<サービス業>

- ・前回上位3項目のうち「人手不足(20.6%:前期比△4.6)」は変わらずも「売上・受注の停滞・不振(2.9%:前期比▲15.1)」、「原材料・仕入製(商)品高(8.8%:前期比▲5.2)」の2項目が減少
- ・一方で「人件費の増加(14.7%:前期比△8.7)」、「諸経費の増加(11.8%:前期比△5.8)」の2項目が増加し、経営課題が移り変わったことがわかる

(3) 特記事項②(卸・小売業、建設業)

<卸・小売業>

- ・前回上位3項目のうち、同率で「諸経費の増加(8.7%:前期比 Δ 0.5)」が加わる以外、変動なし
- ・「売上・受注の停滞・不振(26.1%:前期比 Δ 8.1)」の数値が上昇したほかは、各項目増減3%程度で推移しており、経営上の課題に大きな変化がないことがわかる

<建設業>

- ・前回上位3項目のうち「競争の激化(7.3%:前期比 \blacktriangle 9.4)」が減少を見せた
- ・「人手不足(26.8%:前期比 Δ 7.8)」、「人件費の増加(12.2%:前期比 Δ 5.1)」の数値上昇が目立つ。人手不足に起因した経営課題を持つ事業所が多いと予測できる

3.【設問3】寄せられた声

—自由記述—

自由記述(業界内での話題や困りごとなどなんでも)

<人手不足>

- ・若手人材の不足(サービス)
- ・従業員の高齢化(卸・小売)
- ・人手不足による外注費の増加(建設)
- ・従業員の労働時間が増加している(建設)

<業界内>

- ・自然災害などによる材料価格の高騰(卸・小売)
- ・低料金化が進んでいる(サービス、建設)
- ・首都圏業者の進出により、先行きに不安(建設)

<社会>

- ・社会福祉制度が充実してほしい。介護により、働き世代の労働時間が削られている現状がある。
(サービス)

・消費税増税について

- ①事業者への負担と休廃業の増加を懸念
- ②顧客の消費活動への影響を憂慮

(サービス、卸・小売)

- ・人口減少に伴う顧客数の低下(建設)

<経営>

- ・新規事業の検討(サービス、卸・小売、建設)
- ・後継者不足、事業承継の断念(サービス・建設)